

平成15年度 岐阜県高等学校総合体育大会バスケットボール競技
兼東海・全国高等学校総合体育大会岐阜県予選会
最終日：平成15年6月1日(日)
会場：メモリアルセンターふれ愛ドーム

男子の部

<審判>

決勝リーグ 岐阜総合 103 $\left[\begin{array}{l} 26 - 18 \\ 22 - 18 \\ 27 - 18 \\ 28 - 9 \end{array} \right] 63$ 大垣工業 松野瑞穂・藤浪元明
(2勝) (2敗)

安定したディフェンスの岐阜総合が、リバウンドから速攻によく走って、開始からゲームの主導権を握り、佐守の連続3点シュート、原、梅田らのシュートで得点を伸ばした。大垣工業は松浦のシュートなどで追い上げるが、48-36と岐阜総合のリードで前半を終了した。

後半に入っても岐阜総合の勢いは衰えず、ディフェンスリバウンドからの速攻で梅田らが着実に得点。原、縣らのシュートでリードを広げていった。大垣工業は福吉が踏ん張りを見せたが、岐阜総合の固い守りに屈した。結局、岐阜総合が103-63の大差で大垣工業を下し、悲願の初優勝に向けて一歩前進した。(下畑耕一)

決勝リーグ 岐阜農林 81 $\left[\begin{array}{l} 9 - 13 \\ 18 - 11 \\ 32 - 21 \\ 22 - 17 \end{array} \right] 62$ 美濃加茂 増田博徳・西尾 司
(2勝) (2敗)

両チームともマンツーマンで始まる。お互いに固さのためかシュートが決まらず、ロースコアの静かな出だしとなった。第2ピリオド開始直後、岐阜農林は藤井の連続得点で主導権を握る。その後、美濃加茂は林のドライブで得点をあげるのに対し、岐阜農林は三和がゴール下のシュート、大橋が3点シュートを決め、前半は岐阜農林が3点をリードして終わる。

後半に入ると一転して点の取り合いとなる。岐阜農林は大橋、藤井らが次々とシュートを決め、美濃加茂も日比野、森が応戦するが、シュート力に優る岐阜農林が次第にリードを広げていく。第4ピリオドに入っても岐阜農林の勢いは止まらず、1年生センター三和の活躍もあってリードを守りきり、35年連続インターハイ出場を目指して決勝リーグ2勝目をあげた。(山田

決勝リーグ 岐阜総合 83 $\left[\begin{array}{l} 23 - 21 \\ 14 - 8 \\ 31 - 26 \\ 15 - 9 \end{array} \right] 64$ 岐阜農林 室谷伸治・後藤慎二
(3勝) (2勝1敗)

岐阜総合はマンツーマン、岐阜農林は2-2-1ゾーンプレスでスタートする。岐阜総合は縣が外角シュートやドライブ、梅田がジャンプシュートと活躍を見せ、岐阜農林は大橋のポストプレー、藤井のミドルシュートと互いに持ち味を發揮し、譲らぬ展開となった。第2ピリオドに入ると岐阜総合は堅実なディフェンスから得意の速攻に出て、佐守、原のシュートなどで次第にリードを広げていく。前半は岐阜総合が37-29と8点のリードで折り返す。

後半に入ると岐阜農林は長身センター三和を投入し、ゴール下シュートを決めてリズムを作ろうとする。しかし、岐阜総合は苦しい展開になると佐守がジャンプシュートを決め、リバウンドボールには原、梅田が飛びつき、相手の反撃を許さない。堅実なディフェンス、勢いのある速攻、高いシュート力を武器に岐阜総合が遂に岐阜農林を下し、岐阜県高校バスケットボール界に新たな1ページを開いた。(杉山広之)

決勝リーグ 大垣工業 75 $\left[\begin{array}{l} 16 - 11 \\ 23 - 16 \\ 14 - 26 \\ 22 - 20 \end{array} \right] 73$ 美濃加茂 棚橋英一・田中昭博
(1勝2敗) (3敗)

両チームともハーフマンツーマンで始まる。大垣工業は原の2本の3点シュートで試合の主導権を握り、松岡、大橋がインサイドで高さを活かしてリードを保つ。対する美濃加茂は積極的に外角シュートを狙うが、思うように決まらない。前半は大垣工業が39-27とリードして折り返し、第3ピリオドに入ると美濃加茂の外角シュートが決まりだし、同点に追いついて第4ピリオドに突入した。大垣工業は相手のファウルトラブルに乗じてフリースローを確実に決めていく。しかし美濃加茂も要所で足立がシュートを決め、残り2分には4点リードする。そこから大垣工業は松浦、福吉が着実にシュートを沈め、2点のリードを守って1勝をあげ、第3位に入った。(宮崎泰

女子の部

<審判>

決勝リーグ	岐阜女子 (2勝)	130	$\begin{bmatrix} 35 - 14 \\ 36 - 11 \\ 38 - 9 \\ 21 - 15 \end{bmatrix}$	49	多治見西 (2敗)	小池匡弥・清水 潤
-------	--------------	-----	---	----	--------------	-----------

試合開始から、岐阜女子は激しいマンツーマンディフェンスでボールを奪うと、素早い速攻につなげ次々に得点をあげる。また、センター陣の高さを活かしながら、内外角のバランスの良い攻撃で、宮元、岩田が効率よくシュートを決めて点差を広げ、一方的な展開となる。

岐阜女子は、第3ピリオド序盤には早くもスタートメンバー全員をベンチに下げる余裕を見せた。多治見西は鎌田、前田が積極的にシュートを打つも、相手の高さに圧倒され思うように得点できない。結局岐阜女子が高さ、スピード、選手層の厚さで多治見西を圧倒し、インターハイ出場へ大きく近づいた。(宮崎泰彦)

決勝リーグ	高山西 (2勝)	59	$\begin{bmatrix} 15 - 14 \\ 16 - 14 \\ 6 - 18 \\ 22 - 10 \end{bmatrix}$	56	県岐阜商 (2敗)	相宮俊郎・杉山広之
-------	-------------	----	---	----	--------------	-----------

両チーム共にマンツーマンディフェンス。前半は一進一退の攻防が続き、高山西が3点リードで折り返した。

第3ピリオド残り3分から、県岐阜商は加藤のカットイン、渡辺のジャンプシュートなどで連続ゴールをあげ、県岐阜商が9点をリードした。第4ピリオドに入って高山西は、ディフェンスを2-2-1ゾーンプレスに変え、インターセプトや相手のミスから連続10得点をあげ、試合を振り出しに戻した。その後一進一退の攻防が続いたが、高山西は森川、藤原らのカットインなどが要所で決まったのに対し、県岐阜商は、河野が同点のシュートを狙うが惜しくもはずれ、一歩及ばなかった。結局、59-56で高山西が勝利を手にした。(西脇勝己)

決勝リーグ	岐阜女子 (3勝)	105	$\begin{bmatrix} 32 - 7 \\ 29 - 15 \\ 23 - 14 \\ 21 - 15 \end{bmatrix}$	51	高山西 (2勝1敗)	神山元秀・山田祐治
-------	--------------	-----	---	----	---------------	-----------

ともに2勝同士で迎えた決勝リーグ最終戦、両チームとも気合い充分なスタートとなった。岐阜女子は厳しいマンツーマンディフェンスからボールを奪うと速攻につなげ、趙、宮元、岩田が次々と得点をあげてリードを奪う。高山西は2-3ゾーンディフェンスで守りを固め、相手の高さに対抗しようとするものの、身長差が大きく止めきれない。オフェンスでも古本、湯口、田近がシュートを決めるものの、単発的な攻撃となり追い上げられない。

後半に入っても、オフェンス、ディフェンスともゴール下を完全に支配した岐阜女子は最後まで攻撃の手を緩めず、相手を圧倒し3戦全勝で優勝を決め、10年連続12回目となる全国高校総体への出場権を獲得した。(清水 潤)

決勝リーグ	多治見西 (1勝2敗)	63	$\begin{bmatrix} 20 - 21 \\ 14 - 9 \\ 10 - 15 \\ 19 - 11 \end{bmatrix}$	56	県岐阜商 (3敗)	西脇勝己・安藤 聡
-------	----------------	----	---	----	--------------	-----------

両チームともマンツーマンでスタート。多治見西は鎌田のカットイン、戸松の3点シュートで得点を重ねるのに対して、県岐阜商は加藤の速攻やミドルシュートで応戦し、互角の展開が続く。第2ピリオドの多治見西は正村の3点シュートなどで得点を伸ばし、34-30と4点のリードで折り返した。

後半の県岐阜商は牛丸、河野がゴール下で頑張り、第4ピリオドの残り3分まで一進一退の攻防が続いた。多治見西は林、鎌田の連続ゴールでリードを奪い、粘る相手を振り切って63-56で勝利し、3位を獲得した。(杉山秀謙)